

令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

大阪市立中大江小	学校	児童数	103
----------	----	-----	-----

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	14.56	17.84	28.80	40.98	52.18	9.76	149.51	18.36	49.93
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
女子	13.70	18.11	36.69	39.30	44.52	9.83	146.67	11.33	54.10
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

結果の概要

体力合計点については、今年度は女子が全国・大阪市を上回った。種目ごとに結果を見ると、例年課題になっている筋力・筋持久力・投能力が低い傾向にあった。反対に、例年良い結果が出ている全身持久力は、男女とも全国・大阪市を5ポイント以上上回った。また、今年度は、敏捷性についても、男女ともに全国・大阪市を上回った。

児童質問紙の結果は、男女で異なる結果になっている項目が多かった。「運動やスポーツをすることが好きですか」の項目では、男子は好き、やや好きを合わせて95.7%となり全国・大阪市を上回っていたのに対し、女子は82.1%となっていた。また、「体育の授業では、進んで学習に参加していますか」の項目では、男子が95.5%の児童が肯定的に答えているのに対し、女子は84.6%だった。

また、運動時間について見ると、今年度は全国・大阪市と比較すると同じような傾向にあった。1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合についても、同様の結果だった。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

本校は、限られた広さの運動場を学年ごとに交代で使用するなど、休み時間の運動時間の確保が難しい状況にある。そこで、児童の運動離れを防ぐため、ピロティを使ったり、隙間のスペースにバスケットゴールを設置したり、休み時間の講堂開放を学年ごとに行ったりしながら、工夫して体を動かせるようにしてきた。また、児童の運動に対する否定的な意識を改善するため、昨年度より研究教科を体育科とし、体育の授業が楽しいと感じることができるよう日々の授業に取り組んできた。

その結果、今回の児童質問紙の結果を見ると、男子については「体育の授業は楽しい」の項目に「そう思わない」と回答する児童の割合は0%だった。しかし、女子については、肯定的な回答の割合が全国・大阪市に比べて低かった。本校の女子が授業で楽しいと感じるときは、アンケート結果から見ると、「いろんな種目を体験したとき」「記録に挑戦したり、記録が上がったり、競い合ったりしたとき」となっていた。

今年度は、体育の単元を学年間で同じ時期に合わせるなど、準備・片付けを簡単に行えるようにした。その結果、たくさんの種目にしっかりと取り組めるようになった。また、集団で活動するチームスポーツでは、すべての学年で、児童が勝敗を受け入れつつ、相手を尊重しながら競技をするように取り組んだ。それにより、指導の一貫性が図られ、仲間とともに進んで運動に取り組む児童の姿が見られた。次年度も引き続き、体育の授業づくりについて研鑽を積み、体を動かすことの楽しさや心地よさに気づかせ、運動に親しむ児童を増やしていく。